

創立 70 周年を迎えて

令和 5 年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。組合員の皆様、関係各位の皆様には、日頃より全国小売酒販組合中央会（以下、「中央会」）の活動にご理解とご協力を賜り心より御礼申し上げます。

昨年は、一般社団法人日本フランチャイズチェーン協会（J F A）が中央会に賛助会員として加入し、業界団体としての中央会の歴史に新たな 1 ページが加わりました。本来、コンビニエンスストア各店が地区組合へ加入することが望ましく、今後もそれを目指すことに変わりはありません。しかし、酒類小売業界の課題に立ち向かい、乗り越えていくためには、業界団体としての結束が不可欠です。組織率は最もわかりやすく効果的な組織力を表す指標です。中央会・政治連盟として行政や政治へ要望や折衝をする上で、「約 10 万の酒類小売業者の団体」が今後大きな意味を持つことと思います。そして、その力をどう使うかが最も大切なことです。

今年、中央会は創立 70 周年を迎えます。業界団体として酒類小売業の中核を担い、様々な課題を乗り越え、問題に対処してきました。中央会創設当初の理事会議事録を見ますと、議題の中心は「酒類の取引の正常化」で、酒類の価格について「原則として酒類全般の小売利益は壱割五分をいただきたい」といった要望書の提出も決議されています。その後、酒類の自動販売機の在り方や免許制度の堅持についても多くの時間を割き議論が行われました。

時代が平成に移ってからは、地域社会への貢献や酒類小売業者としての責務を積極的に果たしていくことについての検討が一層活発になり、酒類販売管理研修制度や「20 歳未満飲酒防止・飲酒運転撲滅全国統一キャンペーン」がはじまりました。

いずれにしても、常に中央会では、組合員の皆様の多様な意見を包括し組織運営を行ってきました。当時の役員会や総会議事録には、意見と意見が激しくぶつかり合いながらも、覇気や熱気が溢れています。製造や卸と異なり規模や事情、考え方も様々な組合員から成る小売酒販組合は、凸凹した石のような組織です。角が取れても取れなくても、道が平たんでも険しい山道でもとにかく前に進んできました。

10 年後、20 年後を見据えることは、組合や酒類小売業界のみならず現代においては特に難しいことです。酒類小売業界・組合の課題は山積していますが、縁あって繋がれた組合や組合員の皆様と真摯に向き合い、役職員一丸となり考え、石（意思）を守り、前に進めていきたいと思っております。

私は第 12 代会長として今ここにいます。私は会長の能力を持ち責任を果たしていかなければいけません。酒類小売業界の課題に立ち向かい、より良いかたちで次にバトンをつなぐこと―それが私の役割です。中央会の会議室に並んだ歴代会長の写真を見てその思いを強くしました。

組合員の皆様と共に歩んだ 70 年です。感謝の思いを込めて今号では、年表と写真で見る「全国小売酒販組合中央会 70 年の歩み」を主な内容としてまとめました。また、次号以降に 1 年をかけて各界を代表する皆様からのご祝辞を掲載する予定です。ぜひご覧ください。

引き続き高い緊張感と使命感を持って、業界を取り巻く環境を俯瞰し、困難な課題に正面から向き合い、社会的使命を果たして参りたいと思っております。

結びに、本年が皆様にとって、よい年となることを祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。